

「学びを広げる学習情報・学習機会の充実」 報告書



令和6年3月

豊川市社会教育審議会

目 次

はじめに	1
1 情報発信について	2
2 情報発信の手段について	4
(1) 紙媒体（市・とよかわオープンカレッジ発行）	4
(2) 紙媒体（民間発行）	5
(3) デジタル媒体（市・とよかわオープンカレッジ作成）	6
(4) デジタル媒体（連区・町内会など作成）	7
(5) その他	8
3 情報発信の工夫について	10
(1) 伝わるデザインの工夫	10
(2) 対象者に沿った配付先・発信方法の工夫	11
(3) 手に取りやすいチラシなどの掲出の工夫	12
(4) イベントやキャラクターの活用	13
(5) 検索機能などの工夫	14
(6) 世代などに応じた情報発信の工夫	15
4 情報発信の配慮について	16
(1) デジタル・ディバイド解消の取り組み	16
(2) 独居・社会的孤立をしている方などへの情報発信	17
(3) 学校と連携した情報発信	17
5 情報交換の場づくりについて	18
(1) 「豊川市生涯学習支援ボランティアバンク」の利活用	18
(2) 学習情報の提供・相談	18
(3) 情報交換の拠点としての生涯学習センター	19
(4) 若者が集う工夫	20
資料	21
社会教育委員名簿	22
社会教育委員による調査・研究の経過	24
生涯学習関連事業の情報発信に関するアンケート調査結果（市・関係機関）	25
生涯学習関連事業の情報発信に関するアンケート調査結果（県内市町村）	30
参考図書	39

はじめに

本市の社会教育審議会の委員である社会教育委員は、社会教育法第17条に基づき、本市の社会教育に関し、教育委員会に助言するため、次のような職務を行っています。

- ① 社会教育に関する諸計画を立案すること
- ② 定時または臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を述べることや、このために必要な調査研究を行うこと

このうち①については、毎年度末に開催する社会教育審議会において、次年度の社会教育関係予算及び事業計画の審議を行っているほか、近年では生涯学習推進計画策定の審議に直接関わっています。

また、②については、平成29・30年度は「学びを生かしたまちづくり家庭・学校・地域の連携」をテーマとして、令和元年度・2年度は「第3次生涯学習推進計画中間見直し」をテーマとして、調査・研究を実施しました。

令和元年度に実施した生涯学習に関する市民アンケート調査結果から、情報発信の課題が明確となり、「第3次豊川市生涯学習推進計画改訂版」においても様々な媒体を活用した効果的な学習情報の提供を行う必要があると明記しています。

そこで、令和3・4・5年度の調査・研究テーマを「学びを広げる学習情報・学習機会の充実」とし、情報発信の現状分析や情報化社会に対応するICTを活用した情報提供のあり方を研究することで、学習情報・学習機会の充実を図るための施策提案を行うことしました。

この報告書は、本市における生涯学習関連事業の情報発信の取り組みなどについて、現状分析や具体的な方策を示したものです。生涯学習の推進に係る皆様にご覧いただき、ご活用していただくことを期待いたします。

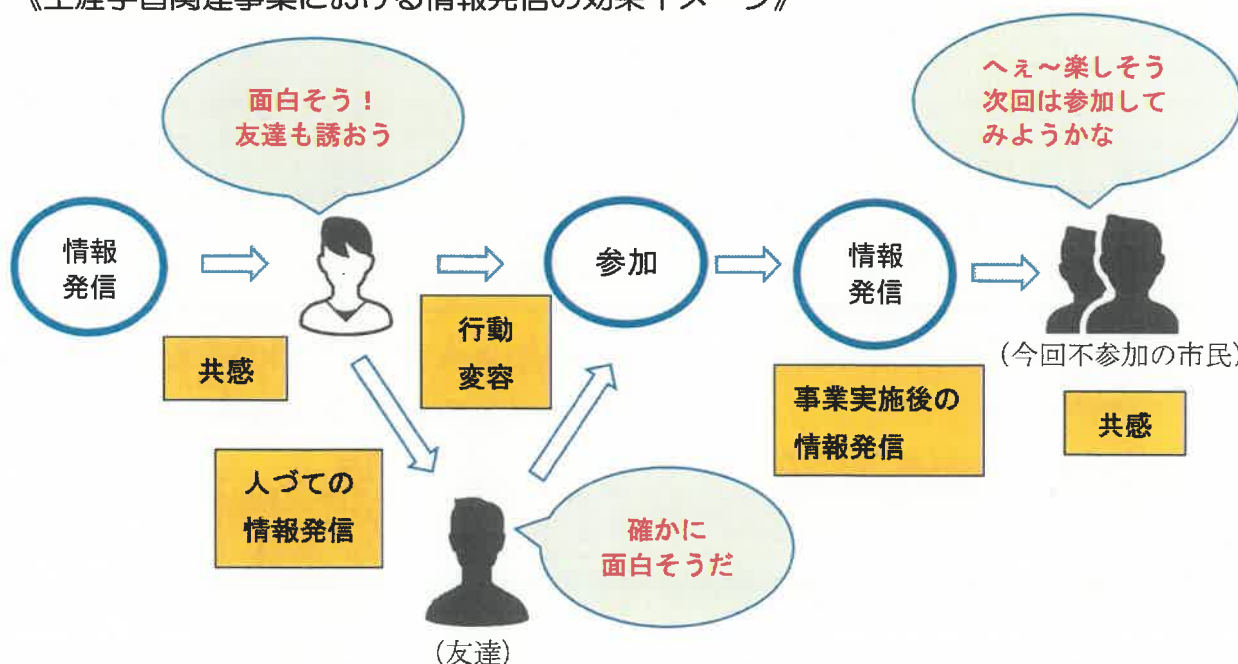
豊川市社会教育審議会
会長 細野 文治

1 情報発信について

「情報発信」は、情報を発信する側から受け取る側に届いて、初めて効果が表れるものです。本報告書で扱う情報発信の対象は、生涯学習関連事業（*）としていますが、事業への参加を促すためには、住民に情報が届き、理解してもらい、行動変容に繋がって、はじめて「伝わる」情報発信ができたと言えるでしょう。また、市が主催する生涯学習講座は、市民が新しく何かを始めてみようと思うきっかけづくりとして行うものであり、市民が「やってみよう」という気になるための情報発信が大切です。

そのためには、情報を発信する側の「思い」が受け取る側に伝わるための視点や工夫が必要であり、「思い」のズレがあると、一方通行の情報発信になってしまう可能性があります。また、毎年同様の情報発信を行うだけではなく、生涯学習関連事業の目的として「市民にどうなって欲しいのか」という視点をもとにした情報発信に取り組む必要があります。例えば、地域課題の解決に関連する事業については、市民に当事者意識を持ってもらう、つまり、自分に関係があると認識してもらうことが重要であり、「関係ない」から「関係ある」に心境の変化を促す取り組みが求められるでしょう。

《生涯学習関連事業における情報発信の効果イメージ》



また、健康分野などの事業については、市民の関心を惹きつけるメリット（利点）・ベネフィット（恩恵）を例示すると同時に、あえてネガティブなことを問題提起し、事業に参加することで改善できる＝課題解決できることを強調して情報発信することも効果的でしょう。

情報発信には様々な手段があり、工夫次第では大きな効果を発揮します。詳しくは第2章、第3章で解説しますが、少人数の定員の事業などについては、そもそも集客のための情報発信をする必要があるのかという視点も大切です。「集客しなければならない」という意識に引っ張られず、充実した事業を企画して、参加者に満足感を感じてもらい、その効果を周知するため、事業終了後の情報発信に力を入れるという考え方もあります。

つまり、生涯学習関連事業の情報発信については、事業の内容や規模に応じた情報発信の手段などを考えて、最小限の努力で最大の効果を得られるように取り組むことが求められると言えるでしょう。

《メリット（利点）・ベネフィット（恩恵）、ネガティブ情報》

（例）メタボをテーマとしたイベントの情報発信

メタボの指摘を受けてしまった方へ

あなたは、どうする？

イベントに参加すると

- ・記念グッズがもらえる
- ・メタボの危険がわかり、何とかしなければと行動したくなる
- ・無理なく続けられる運動を教えてもらえる
- ・運動を続けて体質改善
- ・体の不安が少なくなる

⇒来年の健康診断にはメタボの指摘を受けなくなる（かも）

何もしないと

- ・来年も指摘を受ける可能性（大）！
- ・病気を発症してしまうかも
- ・家族や職場に迷惑かけないだろうか
- ・医療費大丈夫かな？

⇒心配の種が尽きない

*「生涯学習関連事業」とは、市や関係機関が主催する市民の参加を想定して催される講座や教室、イベント、展覧会、演劇、コンサート、講演会、各種大会などをさす。

2 情報発信の手段について

本市における生涯学習関連事業の情報発信の手段については、紙媒体とデジタル媒体（市 HP や公式 SNS など）の2本柱に大別されます。以下に、現状をまとめましたが、既に多種多様な手段が存在していることがわかります。

また、令和5年10月1日からは豊川市公式 LINE の運用が始まり、情報発信の新たな手段として活用されています。生涯学習関連事業の内容によって、最も効果的な情報発信の手段を考えて、取捨選択しながら取り組むことが求められます。

（1）紙媒体（市・とよかわオープンカレッジ発行）

○生涯学習ガイドブック発行

年2回（9月、3月）発行、発行部数 3,000 部／回、公共施設配布、市 HP 掲載

○地域生涯学習だより発行

年2回（9月、3月）発行、発行部数 11,000 部／回、公共施設配布及び町内会組回覧、市 HP 掲載

○生涯学習まちづくり出前講座リーフレット発行

年1回発行、発行部数 1,100 部、公共施設配布、市 HP 掲載

○豊川市生涯学習支援ボランティア登録者（個人・団体）一覧発行

年1回発行、発行部数 200 部、公共施設配布、市 HP 掲載

○とよかわオープンカレッジ講座案内書発行

年2回（9月、3月）発行、発行部数 60,000 部／回、広報折込配布及び公共施設等配布

○生涯学習まるごとナビ

年1回（4月）発行、発行部数 70 部、関係者配布、市 HP 掲載

○個別事業の市広報掲載

- ・毎月1日発行、発行部数 59,400 部／月、町内会加入世帯全戸配布及び公共施設等配布

- ・個別紙面：スポーツのススメ、図書館通信、文化リズム、ほけんコーナー、子育て豊川応援団

○個別事業のポスター・チラシ

随時発行、発行部数は多様、公共施設等配布

※地域生涯学習講座チラシは、町内会組回覧でも配布

※放課後子ども教室チラシは、原則年度始めに学校経由で配布

※その他、各課発行の情報誌が各種あり

・三河国分尼寺跡史跡公園・豊川海軍工廠平和公園・大橋屋（旧旅籠鯉屋）

「〇〇年度の記録」

・発掘だより（発掘調査現地説明会資料）

・文化振興課「イベントインフォメーション」

・桜ヶ丘ミュージアム「ミュージアムだより」

・人権生活安全課 男女共同参画情報誌「ゆい」

など

（２）紙媒体（民間発行）

○メセナ

子どもセンター情報誌「ポップコーン」、各種行政情報

毎月 15 日発行、発行部数 42,000 部／月、新聞折込配布

○スポーツとよかわ

原則毎月第 2 土曜日発行、発行部数 31,050 部／回、中日新聞折込配布

○はなまるプラス

毎月 25 日発行、発行部数 150,000 部／回、東三河各店舗等にて配布

○とよかわ羅針盤

年 4 回発行、発行部数 35,000 部／回、市内各店舗等にて配布

○こどもミライ

年 5 回発行、発行部数 29,000 部／回、市内各店舗等にて配布

など

(3) デジタル媒体（市・とよかわオープンカレッジ作成）

○市 HP

各ページにて個別事業等を掲載

イベントカレンダー（未来3か月、過去1か月）

○中央図書館 HP

掲載情報：図書館、シオスペース館の利用、イベント、講座等に関する情報

○動画掲載

秘書課：動く広報

元気なとよかわ発信課：豊川市制施行 80 周年 P R 映像

生涯学習課：こざかい葵風館 検討～開館までの記録 2016 から 2021

保健センター：歯っぴ～動画 - 歯科啓発動画、糖尿病予防対策プロジェクト

介護高齢課：ほいっぴ豊川局（地域包括ケア、在宅医療など）、介護予防動画

市民協働国際課：豊川市に住む外国人のための暮らしの情報

消防本部：消防体験動画

危機管理課：防災センター紹介動画 など

○公式 SNS

元気なとよかわ発信課（X（旧 Twitter）、Facebook、Instagram、YouTube、LINE）

中央図書館（X（旧 Twitter）、Facebook、Instagram）

文化会館（Facebook）

桜ヶ丘ミュージアム（X（旧 Twitter））

豊川市議会（Facebook、Instagram）

○生涯学習情報サイト まなびネットとよかわ

掲載情報：地域生涯学習講座、放課後子ども教室、とよかわオープンカレッジ

検索機能：中学校区、会場、曜日、カテゴリ、フリーワードなどの項目あり

○愛知県生涯学習情報システム 学びネットあいち

掲載情報：施設情報、ボランティア講師情報、グループ・団体情報

○とよかわ安心メール

配信情報：外国語情報、子育て情報、文化情報、防災情報、気象情報、火災情報、上下水道情報、高齢者情報、結婚支援情報、児童クラブ情報

○デジタルサイネージによる情報発信

- ・コミュニティビジョン（市民課前に設置されたデジタルサイネージによる行政情報の放送、毎月1回更新）
- ・イオン豊川店（開運通）1階フードコート前

（4）デジタル媒体（連区・町内会など作成）

○町内会・連区の電子回覧板やHP等における情報発信

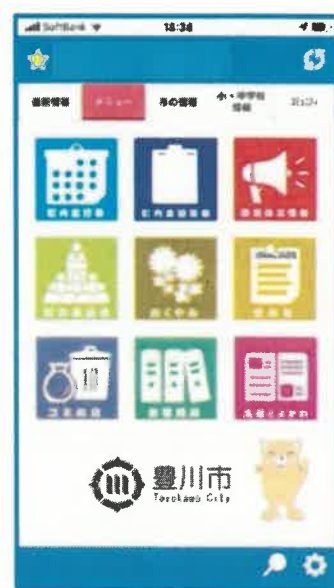
電子回覧板は、従来の紙ベースの回覧板に替わる情報伝達ツールで、スマートフォンやタブレットのアプリを活用することで町内会等の情報をいつでも、どこでもスピーディーに入手・共有することができます。

本市では、令和5年度より町内会電子回覧板「結ネット」が運用されており、生涯学習関連情報の配信を希望する連区・町内会と連携することで、電子回覧板に登録している世帯等へリアルタイムな情報が提供できます。

また、ホームページを作成している連区・町内会（市民協働国際課のホームページにて紹介）との連携による情報発信の手段もあります。



豊川市生涯学習情報サイト
まなびネットとよかわの画面



結ネットの画面

(5) その他

○中央図書館コラボ展示

○記者発表

○行政情報文字放送「とよかわ市政だより」(CCNet(株)豊川局放送の5分番組、一日3回放送、毎月2回更新)

○ボランティアによる施設案内(豊川海軍工廠平和公園、三河国分尼寺跡史跡公園など)

○口コミや人と人とのつながりからの情報伝達

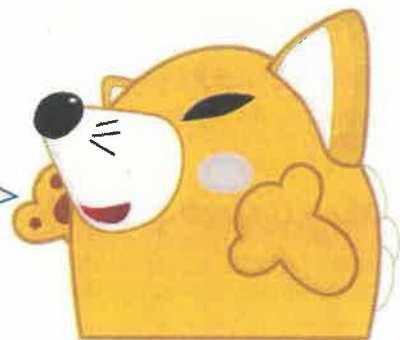
その他の情報発信の手段をまとめましたが、中でも「中央図書館コラボ展示」と「記者発表」は情報発信の効果が高い手段といえます。

「中央図書館コラボ展示」は、市の各部署や関連団体と連携し、主要施策などをPRするとともに、その施策に関連した中央図書館所蔵の図書を多数集めて展示・貸出することによる市政等のPRと市民への情報提供を両立させる企画展示で、来館者からの評判も良好です。「図書館だより」(毎月発行)で事前周知されるほか、展示作業後には中央図書館の公式SNSやホームページで発信されています。図書館来館者は約2,000人/日あり、市内でも利用者が多い施設のため情報発信の効果が高いうえ、報道機関が記事として取り上げてくれることもあります。

また、「記者発表」は、本市の取り組みがメディアで紹介されるメリットとして以下の点があげられます。

- ・多くの人に知ってもらえる
- ・行政の活動が見える化される
- ・市民が参加しやすくなる

豊川市がより魅力的に
なるだリン☆



豊川市宣伝部長兼おもてな〇部長©いなりん

ただし、メディアに取り上げてもらうためには、伝わりやすい記者発表資料を心掛けることが求められます。特にケーブルテレビ会社 CCNet 株式会社豊川局は年間を通して様々な行事取材して番組制作に取り組んでおり、SNS での番組告知など情報発信にも力を入れているほか、地域の祭礼などの過去の番組については地域からの要望を考慮しながら再放送するなど、地域貢献意識の高く、連携するメリットが高い事業所の1つといえるでしょう。

また、口コミや人と人とのつながりからの情報伝達については、友人関係などからの声かけで情報が伝わることは効果的であるとともに、個人アカウントによる SNS などの情報拡散により市内外に幅広く情報が伝わる効果があります。人気のイベントなどは口コミ、人づてで広がっていくため、情報発信に協力してくれる仲間づくりの視点も大切といえるでしょう。



豊川海軍工廠語り継ぎボランティアによるガイド活動



赤坂宿ボランティアガイドによるガイド活動

3 情報発信の工夫について

情報発信は、様々な工夫を凝らすことで、人の目にとまりやすくなります。言うまでもないことですが、広報物は「作る」ことだけではなく、「伝わる」ことが大切です。特に、毎年実施している事業については、チラシ作成やホームページ・SNS への掲載が目的になりがちですが、デザインの工夫や事業の対象者に沿った配布先の工夫をすることで、より伝わりやすくなるでしょう。

この章では、情報発信の工夫について様々な観点からの提言を行います。

(1) 伝わるデザインの工夫

ここでは、ポスター・チラシのデザインに焦点を絞って、伝わるデザインの工夫の要点を考えてみました。デザインを考えるうえで、事業の対象者は誰で、どのような行動を起こしてもらいたいのか（行動変容）を意識することが大切です。例えば、親子向けの事業であれば子どもの笑顔の写真を活用、高齢者向けの事業であれば元気な高齢者の写真を活用することが考えられるでしょう。

要点

- ・アイキャッチを作る

言葉と、視覚に訴えるもの（写真、イラスト、色など）を効果的に使い、ターゲットのハートをつかむ。

- ・メリハリをつける

文字数は少なく、紙面のインパクトを保つ。

「読むもの」から「見てわかるもの」へ。

笑顔ほど人の心をとらえるものはない。

- ・「伝えたいこと」と「知りたいこと」は違う

「伝えたいこと」を受け手の「知りたいこと」に翻訳する。

専門用語などは極力使わずに、受け手の気持ちで言葉選びをする。

- ・アナログとデジタルの両立

チラシやポスターに二次元コードを掲示して紙では伝えきれない情報をウェブに誘導させて伝える。

- ・写真やイラストを使うときは7：3の法則を活用

紙面上部7割には大きな写真やイラストを配置し、キャッチコピーや対象者が知りたい上位の情報を入れる。下部3割に読む情報を配置する。

- 手書きのチラシは味がある

手書きチラシは温かみを感じやすく、個性的にデザインされることで目につきやすい。

(2) 対象者に沿った配布先・発信方法の工夫

事業の対象者に沿ってチラシなどの配布先を工夫することで、市民に情報が届きやすくなります。各施設に日頃からどのような市民が集い、活動しているかを把握することで、配付先を選定するヒントとなるでしょう。以下に、対象者の年代別に人が集う主な公共施設をまとめました。

- 全年代：生涯学習センター、地区市民館、こざかい葵風館、中央図書館・図書館分館、本宮の湯、とよかわボランティア・市民活動センター、ウィズ豊川など
- 子ども・親子：ぎょぎょランド、児童館、つどいの広場（MAH）、保健センターなど
- 高齢者世代：ふれあいセンター、いかまい館、御津福祉保健センターなど

上記の公共施設以外でも、食品スーパーや個人商店などの中にはチラシなどの掲出にご協力をいただけるところがあります。こうした場所に個別にお願いすることも有効でしょう。

また、デジタル情報の発信についても、以下に示すような工夫をすることで、市民に情報が届きやすくなります。

- YouTube 動画のサムネイルを重要視する

ぱっと見て動画の内容がわかるとともに、存在感を感じる見た目のサムネイルとすることで、目につきやすくなる。

- SNS の発信時間を対象者に合わせて設定する

同じ情報でも、発信・発送のタイミングで市民の反応が変わる。

（例）高齢者は平日昼間、勤労者は平日夜間など

（３）手に取りやすいチラシなどの掲出の工夫

各公共施設では、多種多様なチラシなどの掲出依頼を数多く受けていますが、掲出スペースの制限などから全てに対応できない現状もあります。その中でも、見やすく、手に取りやすい掲出の工夫をすることで、市民に情報が届きやすくなります。

○配架場所

- ・他人の目線が気にならない場所だとゆっくり見やすい
- ・近くにソファがありくつろいで見ることができる
- ・待ちスペースの目につきやすい場所に設置されている

○掲出の工夫

- ・見た目を綺麗にする
- ・対象年齢別、市内情報・市外情報など、ジャンル分けに配架することで知りたい情報が探しやすい
- ・丸めたチラシを輪ゴム留めするなど持ち帰りやすい工夫をする
- ・チラシを低い場所に設置することで、子どもや車いすの方が手に取りやすい



御津文化会館のチラシ掲示状況

○チラシ・ポスターを目立たせる工夫

- ・手書きポップの吹き出しなど手作り感が感じられるものは親近感が湧く
- ・カラー画用紙・コルクボードなどの枠や立体感のある掲示は目につきやすい

○イベント当日におけるアイテムの活用

- ・屋外にのぼり旗を等間隔に設置することで視覚的な宣伝効果を高める
- ・ブラックボードなどの立て看板に担当者のお勧めポイントなどをコメント付きで掲示する

○施設職員の意識改革

- ・「情報は生もの」であり古い情報を掲示したままにしない
- ・目につきやすく見やすいように、常に掲示の工夫を意識する



こざかい児童館の手作り感が伝わる掲示

(4) イベントやキャラクターの活用

令和5年度は市制施行80周年記念事業が数多く実施されましたが、豊川市制施行80周年PRアンバサダー「豊川豊」による盛り上げもあり、多くの市民が参加しました。より多くの市民が集うイベント開催時を情報発信のチャンスと捉えて、事業の周知活動を行うことはとても有効な情報発信といえるでしょう。

イベント開催時に「豊川市宣伝部長いなりん」などのキャラクターが活躍する

機会がありますが、情報発信の観点からも、可愛くて目に留まりやすいキャラクターは、ファミリー層を中心に人気が高いほか、とよかわ広報大使やスポーツイベントなどにおける著名人の参加は、大きな宣伝効果があります。

また、イベント時に対面でチラシなどを渡す時は、情報を単に流すだけではなく、事業を企画した背景やこだわった点など、面白みが伝わる工夫があると共感を得やすいです。料理でも一手間かけることで味が変わるように、関わる人の人間味が伝わることで心惹かれる情報となります。

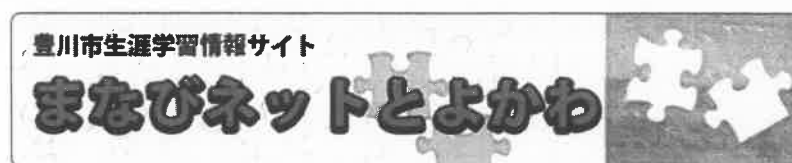
（５）検索機能などの工夫

現在、市 HP に掲載されている事業については、キーワード検索やイベントカレンダーを利用して事業を探すことができます。

また、「豊川市生涯学習情報サイト まなびネットとよかわ」は、生涯学習課所管事業（地域生涯学習講座、放課後子ども教室、とよかわオープンカレッジ）の講座情報を検索できるサイトとして、希望する地域、曜日、カテゴリなどから生涯学習講座を探すことができます。

また、令和５年１０月１日に導入した豊川市公式 LINE については、市民が希望する情報のカテゴリについて、行政からのプッシュ型の情報発信（*）ができるなどの更なる機能の充実を検討しております。

こうした機能は知りたい情報を入手する点でも便利なものであり、市民により一層利用いただくことで、生涯学習関連事業が周知されることとなりますので、より見やすく、使いやすい機能にするために、定期的なメンテナンスを行うことが求められます。



*受信者が自ら情報を取得するのではなく、発信者がインターネットを利用して情報を提供するタイプの情報サービス。

（６）世代などに応じた情報発信の工夫

情報発信を行うにあたっては、世代に応じた情報入手の特徴を知り、それに見合った工夫をすることが大切です。高齢者はデジタルに苦手意識を持たれている方も多く紙媒体を好む傾向がありますが、若者は逆にデジタル媒体、特に SNS 情報を好む傾向があります。

また、生涯学習関連事業においては男性の参加率が低い傾向も見られます。その一方で、図書館には子ども連れの父親を含む保護者がよく来館しているほか、PTA 行事でも父親同士が子育てについて話し合う場面が見られます。このため、子育て関連事業については、男性が共感を得られるような情報発信を工夫すると良いでしょう。



親子ふれあい工房「自分で焼製を作ってみよう」



豊川市 PTA 連絡協議会 子育て研修

4 情報発信の配慮について

生涯学習関連事業の情報発信における受け手側の市民が利用する情報媒体は多種多様であり、環境も異なることに留意する必要があります。以下に対象者ごとの主な情報媒体をまとめました。

- ・インターネット環境が無い方：紙媒体、テレビ、ラジオなど
- ・紙は不要な方：デジタル配信、SNS、ウェブサイトなど
- ・在住外国人：多言語対応、電子配信、ウェブサイト、SNS、口コミなど
- ・ろう者・弱視の方：動画、字幕、UD フォント（*）、電子書籍など
- ・独居・社会的孤立をしている方：地域包括支援センター、保健師、民生児童委員、関係機関など

（１）デジタル・ディバイド解消の取り組み

情報発信を行うにあたり、上記のインターネット環境が無い方や情報リテラシー不足の方は一定数いるため、デジタル・ディバイド（*）に配慮する必要があります。現状では、情報発信の公平性を考える場合、デジタル媒体のみに限定することはできませんが、社会全体のデジタル化が進む中で、紙媒体からデジタル媒体に比重が移っていくことでしょう。その一方で、パソコン・スマホの扱いに不慣れな方を少しでも減らすために、現在も生涯学習講座などで行っている初心者向けスマホ講座について、今後も継続的に実施することが必要です。



*「UD フォント（ユニバーサルデザインフォント）」とは、多くの人に分かりやすく、読みやすいように工夫された文字の書体のことをいう。

*「デジタル・ディバイド」とは、インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のことをいう。

（２）独居・社会的孤立をしている方などへの情報発信

独居・社会的孤立をしている方などについては、支援者や関係機関を介して日常生活を送るうえで知っておくためになる情報が届けられる仕組みが考えられます。そのためには、事業者は支援者や関係機関と協議・連携しながら行うことが必要です。

（３）学校と連携した情報発信

子ども対象の事業については、学校経由で保護者向けにチラシなどの配布をする方法がありますが、配布作業を担う教職員の負担に配慮する必要があります。そのため、この方法による場合は、周年事業など比較的規模の大きな事業などに限定したうえで、校長会で配付の協力依頼を行い、学校と協議・連携しながら行うことが必要です。

今後は、学習 e ポータルの保護者連携機能を活用して、保護者のパソコンやスマートフォンへ直接チラシのデータを送ることも可能になります。ただし、紙媒体のチラシ配布と同じ手続きが必要です。



天王小学校区青少年健全育成推進協議会による「ふれあい教室」～日本凧作り～



5 情報交換の場づくりについて

人が集う場所には情報が集まり、様々な情報交換が行われ、そこからさらに情報が広がります。現代社会において、人と人とのつながりの希薄さが社会問題となる中で、以下にあげたようなつながりの場を大切にする取り組みを行うことが、生涯学習関連事業の周知にもつながっていくといえるでしょう。

（１）「豊川市生涯学習支援ボランティアバンク」の利活用

豊川市生涯学習支援ボランティアバンクは、自分の学習成果や特技・能力などをボランティアとして活かしたいという方々を募集・登録することにより、教育や生涯学習に関するボランティアの指導・支援を必要とする地域や学校、各種グループなどからの求めに応じて情報を提供する制度で、個人 83、団体 10 の登録があります。（令和 5 年 4 月現在）

このボランティアバンクの利活用が活発になることで、学びたい人と教えたい人とのつながりが生まれます。そして、学びを続けていく中で更なる上達を求めるために、自分自身で学習情報を探したり、講座などに参加するなどの行動変容が起こります。

現在、ボランティアバンクの情報は、各生涯学習センターや生涯学習課ホームページなどで公開されています。生涯学習講座や豊川市子どもセンター事業などで講師の利活用がありますが、全体的には利用頻度は高くないため、更なる制度の周知と具体的な利活用の促進が求められます。

（２）学習情報の提供・相談

何かを学びたいと思い始めた人が最初に知りたいことは、どんな事業が、どこで、いつ行われるのかという情報といえます。各生涯学習センターは中学校区ごとの社会教育施設として様々な生涯学習関連事業の情報を集積しており、学習情報の提供や学習相談の拠点施設としてコーディネーター機能を充実させる必要があります。

また、こうした相談場面において「豊川市生涯学習情報サイト まなびネットとよかわ」などの様々な検索機能を紹介しながら、実際に利用していただく機会

をつくることで、今後は自分自身で必要な情報を探したりすることにつながります。

適切なコーディネートを行うためには、知識やスキルを習得している職員が不可欠であり、人材育成の取り組みが求められます。



（３）情報交換の拠点としての生涯学習センター

生涯学習センターは、市民の生涯学習活動の場や地域コミュニティ活動の場として、子どもから高齢者まで様々な年代の方が集う施設です。新型コロナウイルスの影響により縮小傾向にあった活動の場が、少しずつ回復する中で、人と人との交流する場面も見られるようになりました。

人が集う生涯学習センターは、生涯学習関連事業の周知をする機会が多くあります。子ども会や老人会の集まりがある場所に、主催者が出向いてチラシを配布するなどの周知活動も効果があるでしょう。

また、生涯学習関連事業における市民の学びの場面では、認め合う・支え合う関係性が大切ですが、講師などから「上手にできましたね。」などの声かけをもらうことで学習意欲が高まり、今後の活動の励みにもなります。生涯学習講座終了後に参加者同士による意見交換などの時間を作るなど、つながりの場としての工夫も考えられるでしょう。



地域生涯学習講座「絵手紙教室」

（４）若者が集う工夫

一般的に生涯学習センターは高齢者が集まる施設というイメージが強く、若者が集う場としてのイメージがありませんが、多世代交流をコンセプトとした複合施設「こざかい葵風館」は若者の利用が多く、共用スペースで Wi-Fi を利用しながら調べ物をしたり、打合せなどを行う光景が見られます。

また、若者が参画する事業では SNS による情報発信が効果を発揮します。令和5年1月に開催した「弱いロボット博 in こざかい葵風館」では、スタッフである豊橋技術科学大学の学生個人の SNS による情報拡散の効果もあり、多くの市民が来場しました。

若者が主体的に参画する事業を実施している組織として青年団とジュニアリーダーがあるほか、市民協働国際課が実施している「若者ボランティア体験講座」には例年多くの若者が参加しています。こうした若者同士がつながり、交流する場として生涯学習センターが活用されることで、市内で実施されている生涯学習関連事業の情報が若者に周知されるきっかけにもなりえます。



「弱いロボット博 in こざかい葵風館」



TSBO～豊川市青年団盆踊り大会～

資料編

社会教育委員名簿

役 職	氏 名	所 属 団 体
会 長	細 野 文 治	東三河地区家庭教育運営協議会会長
副会長	穴 吹 富貴子	豊川おやこ文化の会代表
委 員	三 浦 孝 裕	豊川市小中学校校長会代表（令和3年度）
同 上	鈴 木 一 哉	豊川市小中学校校長会代表（令和4年度）
同 上	安 藤 孝 枝	豊川市小中学校校長会代表（令和5年度）
同 上	山 口 敏 二	豊川市生涯学習推進員会議会長
同 上	藤 原 利 江	豊川市子ども会連絡協議会役員
同 上	塚 越 京 子	元豊川市PTA連絡協議会役員
同 上	山 川 和 明	一般社団法人とよかわオープンカレッジ副理事長 （令和3・4年度）
同 上	小 嶋 良 夫	一般社団法人とよかわオープンカレッジ理事長 （令和5年度）
同 上	柴 田 功 己	豊川市スポーツ推進委員会委員長
同 上	米 野 美 奈	おはなしのとびら代表
同 上	大光明 隆 見	光明寺幼稚園園長
同 上	中 村 詠 子	（特非）とよかわ子育てネット理事（令和3・4年度）
同 上	志 村 貴 子	（特非）とよかわ子育てネット理事（令和5年度）
同 上	白 井 康 雄	豊川美術協会会員
同 上	田 中 康 夫	ヒト・コト・モノ制作委員会プロデューサー

事務局

氏 名	役 職
高 本 訓 久	豊川市教育委員会 教育長
前 田 清 彦	豊川市教育委員会 教育部長
高 橋 純 司	豊川市教育委員会 教育部次長（令和3年度）
酒 井 保 吏	豊川市教育委員会 教育部次長（令和4・5年度）
林 弘 之	豊川市教育委員会 生涯学習課 課長（令和3・4年度）
石 黒 泰 基	豊川市教育委員会 生涯学習課 課長（令和5年度）
高 垣 太 一	豊川市教育委員会 生涯学習課 課長補佐
鈴 木 理 之	豊川市教育委員会 生涯学習課 生涯学習係長（令和3年度）
後 藤 弘	豊川市教育委員会 生涯学習課 生涯学習係長（令和4・5年度）
山 本 将 史	豊川市教育委員会 生涯学習課 生涯学習係主事（令和3・4年度）
流 川 大 地	豊川市教育委員会 生涯学習課 生涯学習係主事（令和5年度）

社会教育委員による調査・研究の経過

期 日	会議・視察・WS 等	内 容
R3. 3. 10	令和2年度第3回社会教育審議会	調査・研究テーマの決定
R3. 8. 19	第1回ワークショップ	・豊川市における行政情報の発信などについて（秘書課広報広聴係職員説明） ・社会教育委員による情報発信活動について（意見交換）
R3. 10. 13 ～R3. 11. 5	生涯学習関連事業の情報発信に関するアンケート調査実施	調査対象者：庁内部署、市内関係機関、県内各生涯学習主管部署
R4. 3	令和3年度第2回社会教育審議会（紙面開催）	・社会教育委員による調査・研究期間の延長（案）について ・生涯学習関連事業の情報発信に関するアンケート調査結果について
R4. 6. 8	第2回ワークショップ	・とよかわ生涯学習ガイドブック令和4年度前期版について ・公式SNSを活用した生涯学習講座実施後のPRについて
R4. 8. 4	第3回ワークショップ	・中央図書館コラボ展示について（中央図書館職員説明） ・生涯学習情報の検索サイト・アプリについて
R4. 12. 22	第4回ワークショップ	・CCNet 株式会社豊川局における地域密着型の放送などの取り組みについて（CCNet(株)豊川局職員説明）
R5. 3. 7	第5回ワークショップ	・生涯学習関連事業に関する情報発信の現状について
R5. 6. 14	第6回ワークショップ	・今までの調査研究から得られた視点について ・調査報告書の骨子（案）について
R5. 8. 25	第7回ワークショップ	・各施設におけるポスター、チラシ等の掲示の工夫について
R5. 9. 27	令和5年度第2回社会教育審議会	・調査・研究報告書原案について
R5. 12. 25	第8回ワークショップ	・調査・研究報告書（案）について
R6. 3. 7	令和5年度第3回社会教育審議会	・調査・研究報告書（最終案）について
R6. 3. 19	教育委員会定例会	調査・研究報告書提出

豊川市及び市関係機関における生涯学習関連事業の情報発信に関するアンケート調査結果

【調査概要】

豊川市社会教育審議会では、令和3～4年度における豊川市社会教育委員の調査研究として、「学びを広げる学習情報・学習機会の充実」をテーマに掲げ、より効果的な情報発信のあり方について情報収集を行っている。

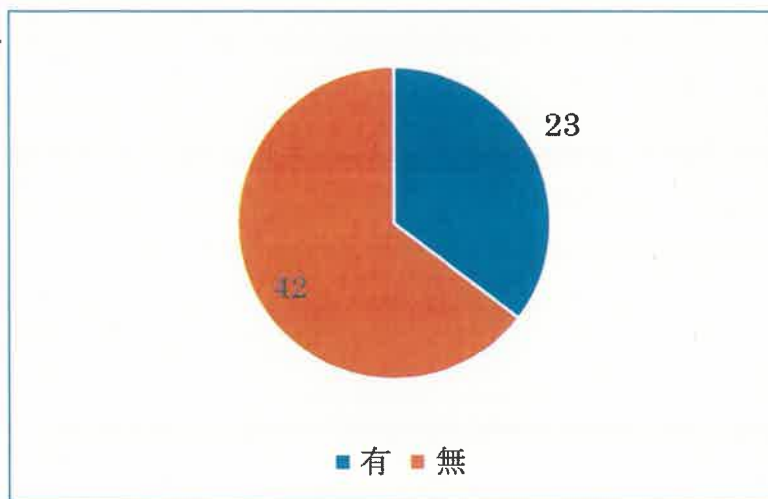
その一環として、生涯学習関連事業(*)の情報発信について現状を把握するため、下記方法によりアンケート調査を実施した。なお、アンケート回答は原文のまま掲載している。

*本調査の対象とする「生涯学習関連事業」とは、アンケート調査対象者が主催する市民の参加を想定して催される講座や教室、イベント、展覧会、演劇、コンサート、講演会、各種大会などをさす。

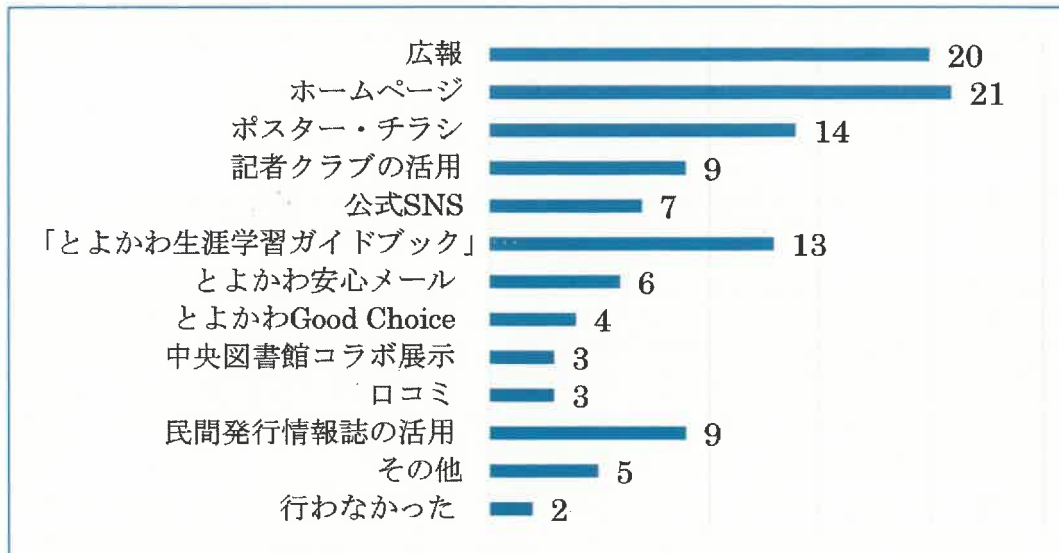
アンケート調査対象者	豊川市全課、豊川文化協会、豊川市社会福祉協議会、豊川市施設管理協会、豊川市保育協会、豊川市国際交流協会、豊川市観光協会
調査期間	令和3年10月13日(水)～同年11月5日(金)
調査方法	あいち電子申請届出システムによるオンライン回答
回答数	65

※市関係機関において部署毎に回答を得た数字もあるため、調査対象数及び回答率は計上しない。

問1 令和2年度～令和3年度(令和3年9月まで)における生涯学習関連事業の実施の有無



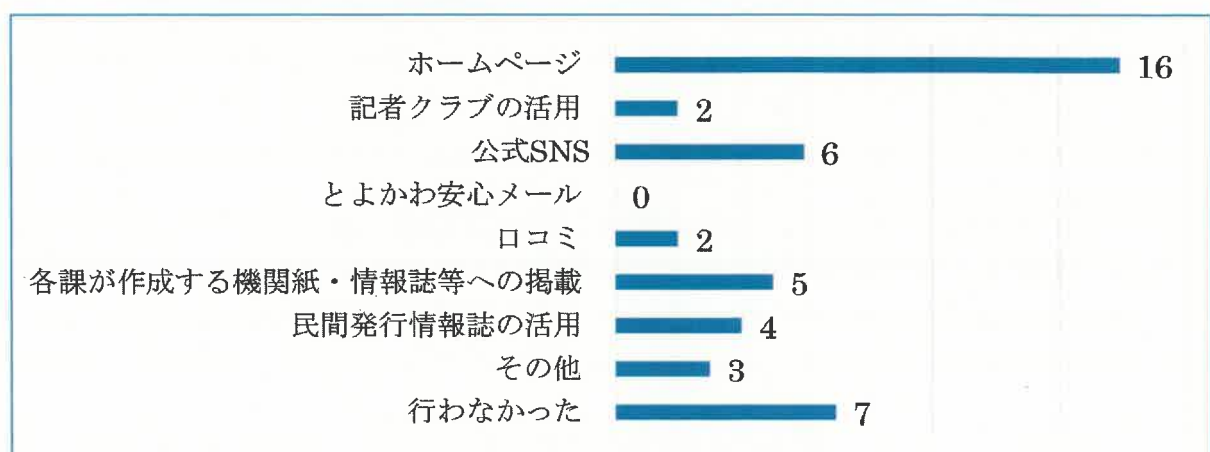
問2 生涯学習関連事業の実施前における情報発信の手段の項目（複数選択可）



【その他回答】※1 部署で複数回答あり

- ・学校を通じての案内配付
- ・ごみ分別促進アプリ「さんあ〜る」
- ・いきいき元気メール
- ・行政無線放送
- ・まなびネットとよかわ
- ・学びネットあいち
- ・東三河ほいっふネットワーク - 豊川市
- ・介護高齢課主催の別の教室で参加者に案内

問3 生涯学習関連事業の実施後における情報発信の手段の項目（複数選択可）

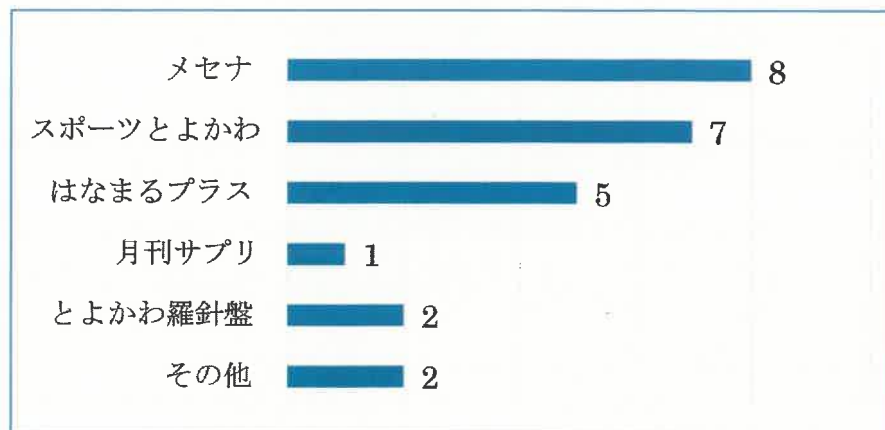


【その他回答】

- ・事後アンケートを集約し、関係者へ配付
- ・YouTube

問4 民間発行情報誌の種類（複数選択可）

※問2及び問3で「民間発行情報誌への掲載」を選択した場合のみ回答

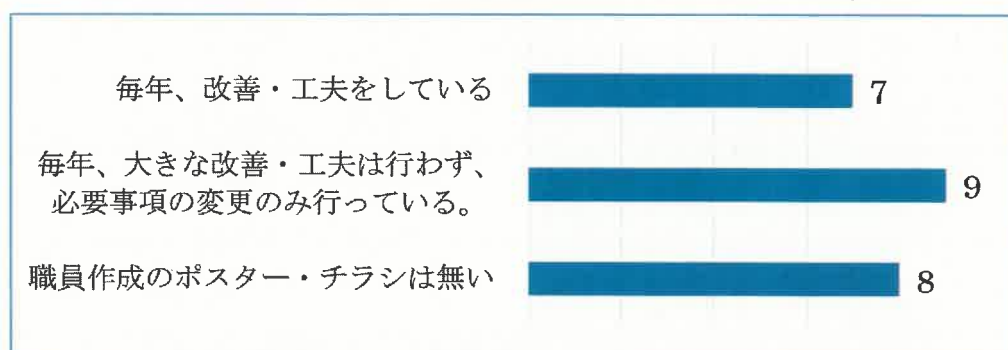


【その他回答】

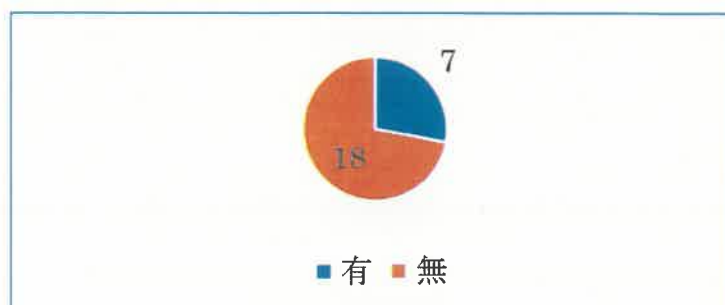
- ・音羽商工会「商工会だより otowa」、御津町商工会「御津町商工会情報」、一宮商工会「商工会だより」)
- ・まなびいあいち

問5 職員作成によるポスター・チラシのデザインについて

※毎年実施している事業について回答。単年度事業や印刷業者等のデザインによるポスター・チラシは除外。

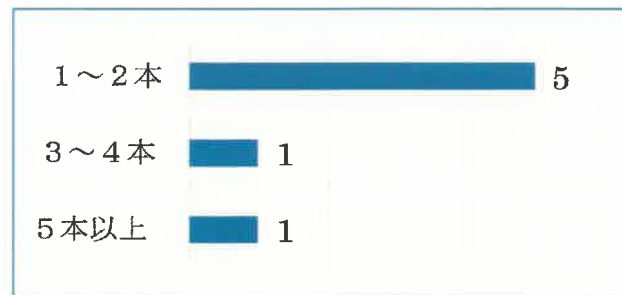


問6 生涯学習関連事業の実施における動画掲載の有無

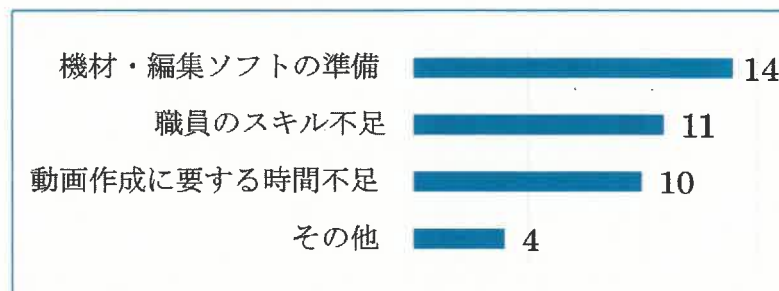


問7 動画掲載の本数

※問6で「有」を選択された場合のみ回答



問8 動画掲載の課題（複数選択可）



【その他回答】

- ・今後も動画掲載の予定がない。
- ・動画作成の方法を習得するまでに時間を要する。また、職員間での技術的な引き継ぎの点で難しさを感じる。
- ・親と子のふれあいを目的にしているため。
- ・無料の「フォト」で動画編集しているが、トリミングなどやりづらさがある。

問9 生涯学習関連事業の情報発信について工夫していること（自由意見）

- ・より多くの方に各事業を知っていただくために、あらゆる手段を使って周知している。
- ・ポスターを本庁舎や各支所、各公共施設、観光施設などなるべく多くの場所に掲載することで人目に触れる機会を増やすことを心掛けている。
- ・講座内容を毎年見直し、より魅力的なものになるように工夫を重ねている。
- ・誰を対象に、またその対象者がどのような情報を求めているのかを意識して発信する。
- ・伝えたいことは何かを意識して発信する。
- ・情報を発信するタイミングを考える（多くの人がSNSを見ている時間に投稿する）。

問10 生涯学習関連事業の情報発信全般について（自由意見）

- ・パンフレット等を作成しても施設等に配布して終わっているのでは、効果が分からない。
- ・子ども向け事業は、口コミで情報を得る人が一定数いる。話題にのぼるよう、人が集まっている所で宣伝するのも良いと思う。
- ・情報発信の多チャンネル化は必要であると感じる一方で、職員の負担が増えてしまうデメリットも多い。秘書課による市全体の魅力ある情報発信やコラボレーションも必要ではないかを感じる。
- ・若い世代がよく使う SNS（ツイッター、インスタ、YouTube）の効果的な利用の仕方等について、全庁的に取り組む必要性を感じる。
- ・情報発信の手段としてはホームページや広報とよかわ、とよかわ Good Choice など様々な媒体があるため、事業内容によって使い分けることができる。ただ、その媒体にどの程度の宣伝効果があるかは判断しかねる場合が多いため、媒体別の宣伝力については注視する必要があると感じる。

県内市町村における生涯学習関連事業の情報発信に関する アンケート調査結果

【調査概要】

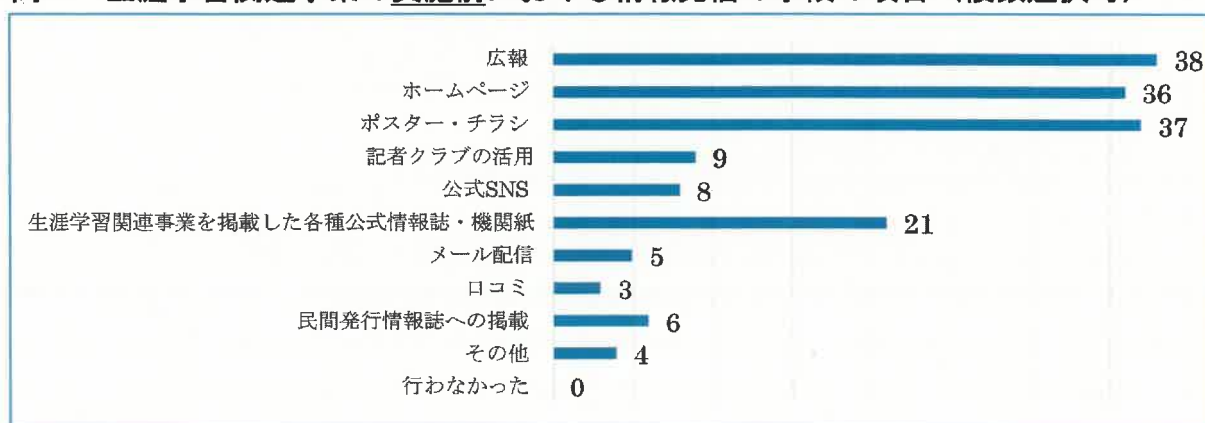
豊川市社会教育審議会では、令和3～4年度における豊川市社会教育委員の調査研究として、「学びを広げる学習情報・学習機会の充実」をテーマに掲げ、より効果的な情報発信のあり方について情報収集を行っている。

その一環として、生涯学習関連事業(*)の情報発信について現状を把握するため、下記方法によりアンケート調査を実施した。なお、アンケート回答は原文のまま掲載している。

*本調査の対象とする「生涯学習関連事業」とは、アンケート調査対象者が主催する市民の参加を想定して催される講座や教室、イベント、展覧会、演劇、コンサート、講演会、各種大会などをさす。

アンケート調査対象者	各市町村教育委員会生涯学習事業所管課 53 か所
調査期間	令和3年10月13日(水)～同年11月5日(金)
調査方法	あいち電子申請届出システムによるオンライン回答
回答数	38
回収率	71.6%

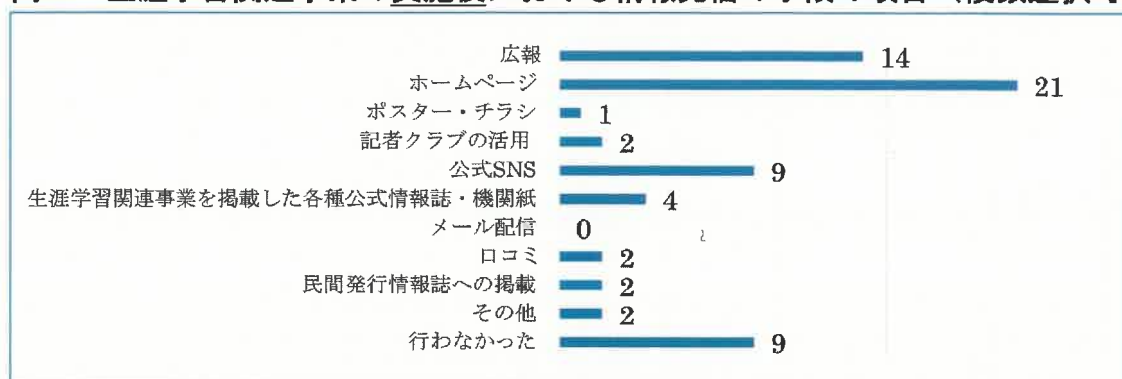
問1 生涯学習関連事業の実施前における情報発信の手段の項目（複数選択可）



【その他回答】

- ・ 防災無線
- ・ 母子手帳アプリ「すくすくアプリ美浜」(母子モ)
- ・ 市役所正面入り口横 情報モニターへの掲載
- ・ 市公式ポータルアプリ

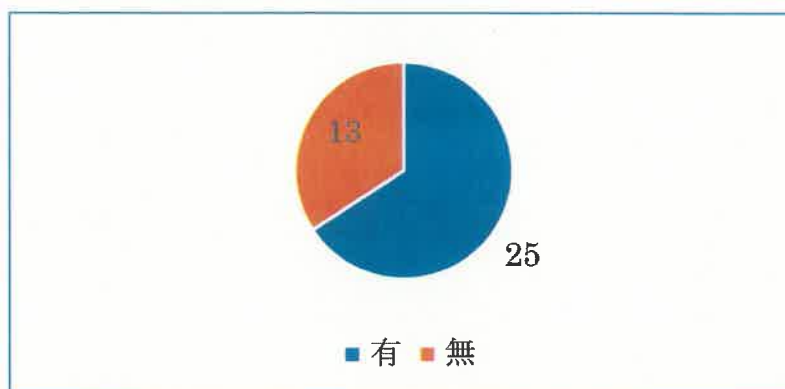
問2 生涯学習関連事業の実施後における情報発信の手段の項目（複数選択可）



【その他回答】

- ・ブログ
- ・YouTube

問3 生涯学習関連事業を掲載した情報誌について

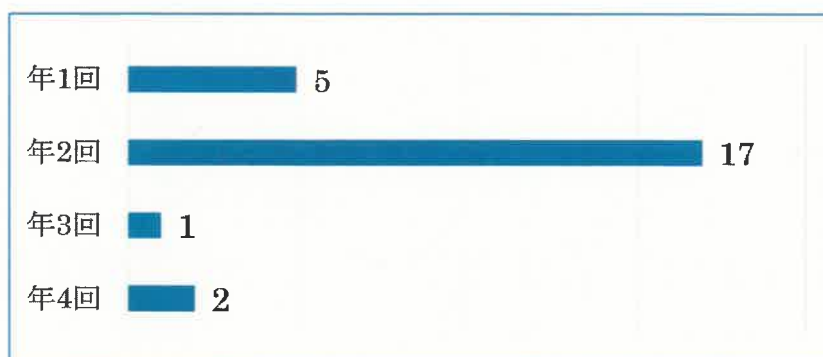


問3-1 情報誌の名称 ※順不同

- 日進市生涯学習情報誌 PLAN（日進市）
- いちのみや生涯学習情報（一宮市）
- よかよかガイド（刈谷市）
- 生涯学習のご案内（愛西市）
- 生涯学習案内冊子「ハート to は〜と 生涯学習講座一覧」（尾張旭市）
- LibraIon（岡崎市）
- 生涯学習のご案内（あま市）
- こまなび（小牧市）
- 社会教育センター通信（飛島村）
- 生涯学習情報誌「スマイル」（長久手市）
- 田原市生涯学習情報誌（田原市）
- 豊山町生涯学習情報誌 生きがいタウン（豊山町）
- 生涯学習ガイドブック（知立市）

生涯学習だより（常滑市）
 カルチャー&スポーツ（武豊町）
 とうかいライブラリ（東海市）
 生涯学習情報誌 glad!（豊橋市）
 生涯学習情報誌あんてな（安城市）
 生涯学習情報誌ジョイフル（東郷町）
 生涯学習ガイドブック「コノハナ」（知多市）
 阿久比町生涯学習ガイドブック（阿久比町）
 稲沢市の生涯学習事業（稲沢市）
 生涯学習のご案内（蟹江町）
 講座・イベント情報誌（半田市）
 とよかわ生涯学習ガイドブック（豊川市）

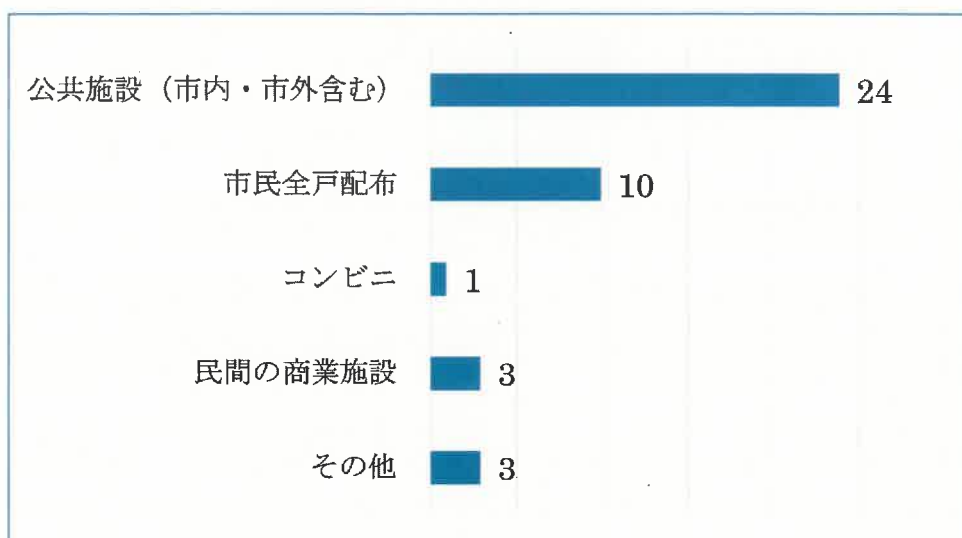
問 3－2 年間発行回数



問 3－3 毎回の発行部数



問 3－4 配布先（複数選択可）

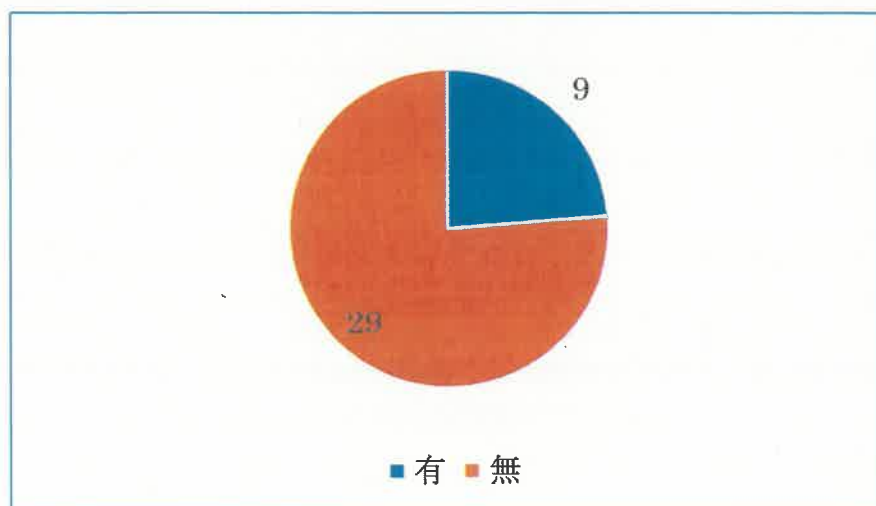


【その他回答】※ 1 市町村で複数回答あり

- ・ ホームページにも掲載
- ・ 情報提供団体
- ・ 市内在住の 65・66 歳の方
- ・ 転入者

問 4 生涯学習関連事業の情報発信を目的とした貴市町村独自のホームページやアプリの運用について

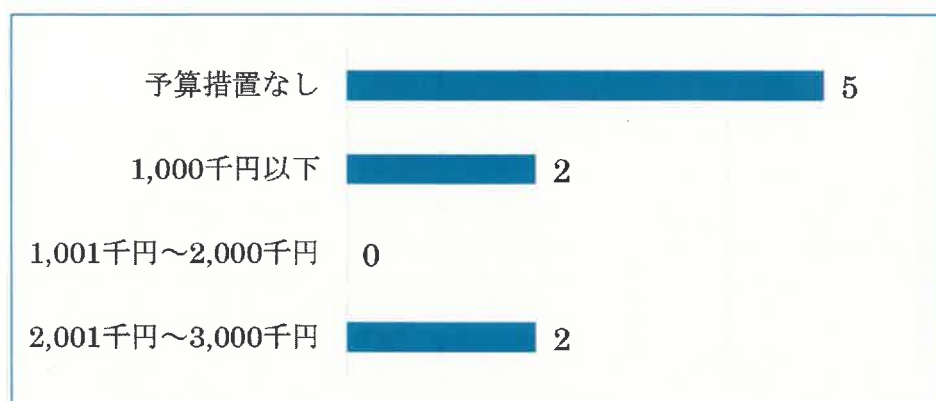
※市町村独自のホームページやアプリを運用している場合のみ回答



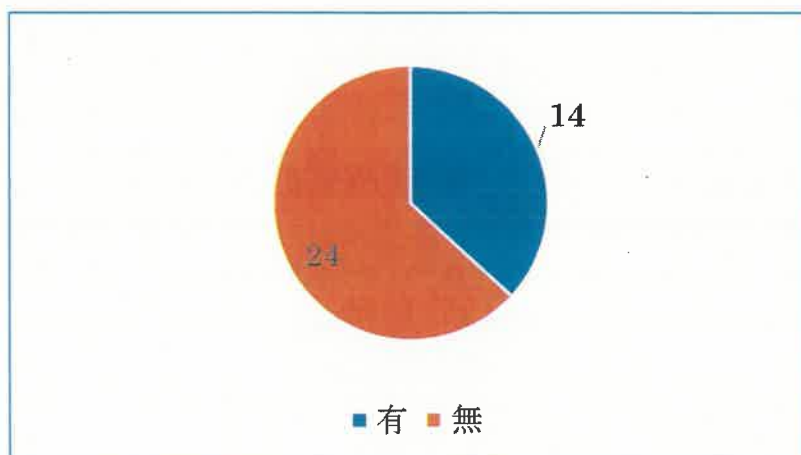
問 4－1 ホームページサイト・アプリの名称 ※順不同

春日井市生涯学習情報サイト「まなびや選科」(春日井市)
「e-ねっとなごや」、「生涯学習 WEB ナビなごや」(名古屋市)
母子手帳アプリ「すくすくアプリ美浜」(母子モ)(美浜町)
生涯学習情報サイトこまなび(小牧市)
北名古屋市生涯学習ちゃんねる(youtube)(北名古屋市)
各地区市民館ホームページ(豊橋市)
あんてな(安城市)
東郷町ホームページ(東郷町)
生涯学習情報サイト まなびネットとよかわ(豊川市)

問 4－2 ホームページサイト・アプリの運用に要する年間予算額

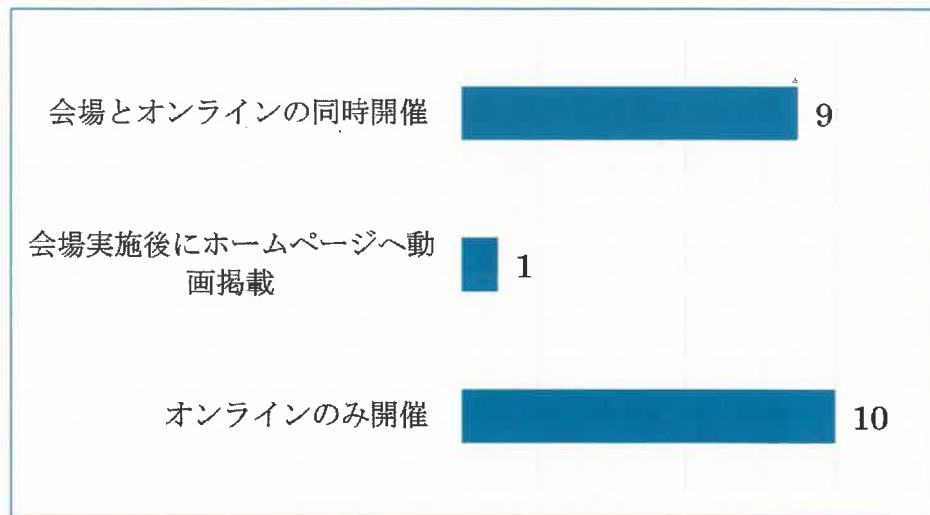


問 5 令和2年度～令和3年度(令和3年9月末まで)におけるオンライン講座等の開催の有無



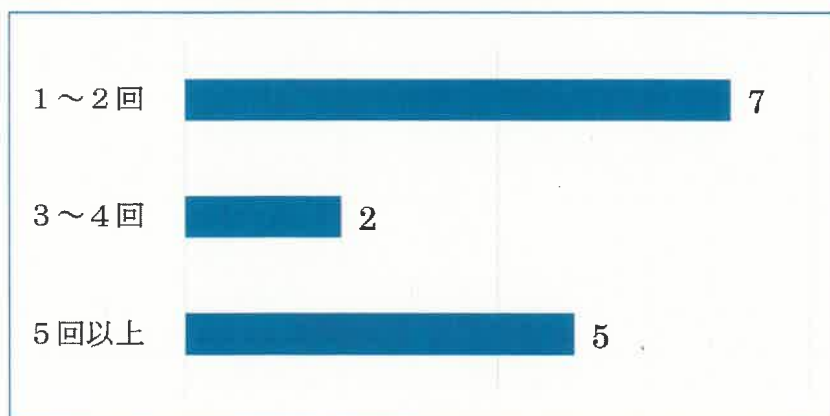
問6 オンライン講座等の開催方法（複数選択可）

※問5で「有」を選択された場合のみ回答

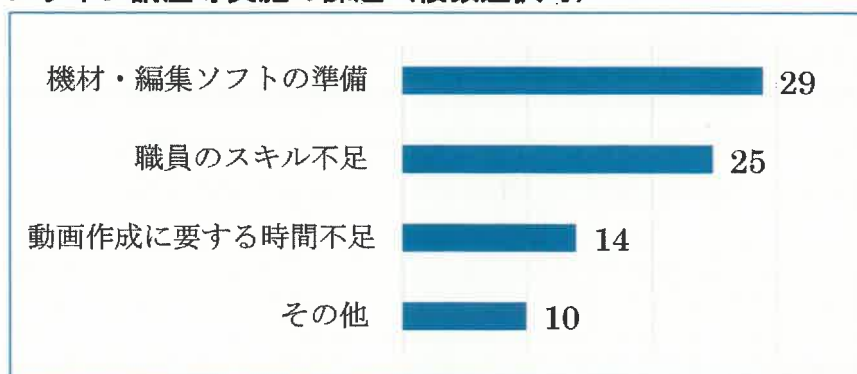


問7 オンライン講座等の開催回数（複数選択可）

※問5で「有」を選択された場合のみ回答



問8 オンライン講座等実施の課題（複数選択可）



【その他回答】

- ・受講生側の環境整備、スキル向上。
- ・受講者側のスキル不足
- ・利用可能なパソコン台数の不足（オンライン用のパソコンはデジタル推進室が管理）
- ・オンライン講座に適した既存の講座がない。対応できない参加者が多い。
- ・機材や WIFI がないため業者に委託して実施したが、費用が高額になってしまう。
- ・オンラインでの実施に向かない講座のため。
- ・生配信（同時配信）を安定して行うには、施設内に有線（LAN）等の配信環境が必要。
- ・生涯学習施設に、配信用のネットワーク環境が整っていない。受講者側の、受講用のネットワーク環境が不十分、または視聴するための技能が不足している。
- ・ネット上で様々な学習動画が公開されているため市が実施する必要性が低い。

問9 生涯学習関連事業の情報発信について工夫していること（自由意見）

- ・問1と重複しますが、市広報誌及び市ホームページ・生涯学習情報サイト・民間発行情報誌への募集記事の掲載や、公民館等公共施設へポスター・チラシの設置を行っています。また、受講者の応募が少なかった場合は、他の講座等参加者へチラシ等を配布して再周知を行うこともあります。
- ・問2のとおり、春日井市では講座実施後における情報発信は行っていないですが、行う場合はどのような情報を発信しているのか、他市の状況に興味があります。
- ・生涯学習情報誌「よかよかガイド」は紙媒体で作成するため発行後は情報の更新ができなかったが、今年度版から電子化したことにより、常に最新の情報を発信できるようにした。
- ・より多くの人に情報が届くよう、複数の発信手段を用いるようにしている。
- ・市民目線で生涯学習関連事業の情報発信ができるよう、市民活動団体に業務委託をし、情報誌を発行している。
- ・市民ボランティアと連携し、情報誌を発行している。また YouTube チャンネルを運営している。
- ・自前のホームページサイトや公式 SNS での情報発信に加え、他部署が行っている情報サイトにも情報提供している。
- ・対象に合わせてチラシの配布先などを随時検討している。
- ・なるべく若い世代に情報が届くように工夫しています。
- ・生涯学習情報誌の表紙について、目にとまりやすいように工夫している。
- ・生涯学習情報誌の内容について、読者が掲載講座の内容を想像しやすいように、講師のコメントを掲載している。

- ・広報誌等の紙媒体で案内するものは、同時に市のホームページにも極力掲載している。
- ・北名古屋市の公式 LINE や生涯学習課の公式 Youtube など、インターネットを活用した情報発信を行うことで、より幅広い層へ周知できるように工夫している。
- ・市民の周知方法として HP を活用している。
- ・公式 SNS を開始しました。
- ・市職員等が地域に出向いて、市の行政内容などについてわかりやすくお話をする、「知って得する出前講座」の取り組みの動画を作成して、YouTube で配信している。
- ・広く町民の目に留まるよう、広報・ホームページ・全戸配布チラシ等の情報発信をしている。事業によっては、町内小学校を通して、チラシ配布を依頼し募集等を行っている。
- ・より多くの方に各事業を知っていただくために、あらゆる手段を使って周知している。

問 10 生涯学習関連事業の情報発信全般について（自由意見）

- ・令和 2 年度及び 3 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で、講座等の事業を中止または延期するケースが多くありました。また、同様にウイルスの感染を懸念し、応募を断念する市民の方が多く、講座の開講が危ぶまれることもありました。
- ・情報誌等では掲載できる内容に制限がありますが、市ホームページ等のインターネット記事については、事業内容の詳細を記載できるほか、イラストを使用するなどより多くの方の目にとまるような工夫に努めています。
- ・問 1 の項目以外で、他市独自に行っている情報発信の方法があれば、ご教授いただきたいと思います。
- ・広報での情報発信が特に効果があった。
- ・現状、紙媒体での周知が多く、SNS を活用した情報発信に力を入れていきたい。
- ・生涯学習関連事業を情報発信する際、通常、市広報紙および市公式ウェブサイトを活用しています。しかし、若者を対象とした講座は、受講者が集まりにくい傾向があります。今後、より多くの若者に生涯学習関連事業に参加してもらうため、若者に情報が届く広報媒体を研究し、採用する必要があります。
- ・新たに講座参加してもらえそうな情報発信方法の改善が課題です。
- ・市ホームページでの案内だけでは狙ったターゲットに情報が届いていないと想像できる。インスタグラムやツイッターのハッシュタグ等の情報発信が手間に見合う効果があるようなら今後検討したい。
- ・SNS を活用した情報発信をしているが、発信力が弱く、多くの方への周知に至っていない。より市民の方に見ていただくための工夫が必要だと感じる。

- ・情報発信の主な手段が紙媒体であり、見てくださる年齢層に偏りがある。そのため豊橋市では新たに Facebook を開始し、新しい年齢層の方にも見ていただくと考えています。
- ・パンフレット等を作成しても施設等に配布して終わっているのでは、効果が分からない。
- ・子ども向け事業は、口コミで情報を得る人が一定数いる。話題にのぼるよう、人が集まっている所で宣伝するのも良いと思う。
- ・情報発信の多チャンネル化は必要であると感じる一方で、職員の負担が増えてしまうデメリットも多い。秘書課による市全体の魅力ある情報発信やコラボレーションも必要ではないかを感じる。
- ・若い世代がよく使う SNS（ツイッター、インスタ、YouTube）の効果的な利用の仕方等について、全庁的に取り組む必要性を感じる。

参考図書

- ・「いなりん宣伝部長のパブリシティガイドだリン☆」(豊川市企画部秘書課発行)
- ・「シティセールスパーソンになるためにー市公式 SNS やキャラクターの活用方法ー」(豊川市企画部元気なとよかわ発信課発行)
- ・「住民の心をつかむ自治体チラシ 仰天! ビフォーアフター」(著者:足立区シティプロモーション課)
- ・「誰ひとり取り残さない 住民に伝わる 自治体情報の届け方」(著者:佐久間智之)

「学びを広げる学習情報・学習機会の充実」報告書

発 行：豊川市

企画・編集：豊川市社会教育審議会

事務局：豊川市教育委員会生涯学習課

〒441-0292 愛知県豊川市赤坂町松本 250 番地

電話 0533 (88) 8035

FAX 0533 (88) 8038

発行年月：令和6年3月